森のなかま

２０２３年　１２月号

ＮＯ．１８６（継続３３１号）

NPO法人かながわ森林インストラクターの会　http://www.forest-kanagawa.jp　　発行人　黒川　敏史

〒243－0018　厚木市中町２丁目１３番１４号・サンシャインビル６階６０４号　TEL046－297－0301・Fax046－297－0302

第 12 回 森まつり (神奈川県立２１世紀の森主催)

日　時：　令和５年 10 月２２日（日）　晴れ
場　所：　県立 21 世紀の森（神奈川県南足柄市内山）
参加者：　２００名　(大人１００名　子供１００名)
　　県立２１世紀の森スタッフ　野村様・荒木様・弘島様
　　（公財）かながわトラストみどり財団　古舘様、看護師 佃様
インストラクター：　L上宮田⑪、稲野辺⑬、内田⑰、小国⑰

（記　稲野辺 健一⑬）

県立２１世紀の森主催「第 12 回 森まつり」が４年ぶりに開催されました。『観る・知る・遊ぶ・体験する森』をテーマにした会場は２カ所に分けられ、森林館付近では、スタンプラリー受付のほか、木工の玩具・アクセサリーや地域の食材等の販売、フードワゴンによる飲食店が並びました。

また駐車場下の運動広場では「間伐材の丸太切り」「木製玩具（木馬、輪投げ、ピンボール等)」、フィンランド発祥のゲームスポーツ「モルック」など無料体験できるスペースが設けられました。その内、森林インストラクター４名は「丸太切り」コーナーを担当。玉切り用馬２台に約２メートルのスギ間伐材をセットし、参加者は一度も途切れる事無く大盛況でした。参加者が一様に興味を示すのは『両手挽きのこぎり』です。

ほとんどの方は見るのも使うのも初めてという事もあり、インパクトもつかみも抜群でした。
体験前には、注意事項を説明し、インストラクターが見本を示しながら、のこぎりの持ち方、足腰の構え方などを丁寧に教えました。また今回はファミリー世帯の参加者が多かった事もあり、丸太を切り進め易いよう、先に５センチほどの切り込みを入れてからバトンタッチしたためスムーズに切り進むことが出来たようです。

参加者の中には、掛け声をかけながら共同作業する親子、最初から切り落とすまでやり遂げた小学生、丸太切りに魅了され何度も繰り返し体験される親子、その姿を動画や写真に収めるシーンなど、ほのぼのとした光景も見られ、それぞれが楽しんで頂けた事と思います。また、スギとヒノキの葉や実を見て貰いながら樹種の違いや特長も紹介しました。何より参加者が誰一人ケガする事無く、安全に実施できた事に安堵しました。

非日常の空間や楽しさを提供できる機会を通して、森林や水、生物多様性、自然環境の大切さを理解いただけましたら幸いです。森林インストラクターはメッセンジャーとなり県民の皆さんに紹介していきたいと思います。

舞岡公園で谷戸と里山の多彩な自然を楽しむ

日時：2023 年 10 月 1 日(日)　10：00～15：00 晴 - 曇り
場所：舞岡公園、舞岡ふるさとの森
参加者：27 名
参加インストラクター： L 河西⑮、久次米⑯、小池⑰、松永⑪
主催：（公財）かながわトラストみどり財団; 榎様、斉藤様

（記・写真　河西　静夫⑮）

谷戸（やと）は雨水や湧水などによってできた開析谷（かいせきこく）で、丘陵や樹林帯に囲まれ、湿地、湧水、水路、水田などの農耕地やため池などを有する地形を指します。洪水被害が無く、容易に田をつくることができるため、早くから水田開発を始めることができたと考えられています。日本の里山の原風景の一つであり、多くの動植物と人が共存する貴重な空間となっています。

舞岡公園は横浜市戸塚区、ブルーライン舞岡駅から約 1.5 km に位置し、横浜市の「緑の七大拠点」の一つとして、豊かな緑と湧水の谷戸の地形が活用され、市民が農体験や自然観察を楽しむことができる公園として整備されています（約 27 ha）。今回の自然観察会は、舞岡公園とその周辺の里山、谷戸を散策し、動植物や人の暮らしを学び、楽しむことを主眼として開催されました。

参加者の予定は朝 10 時に舞岡駅に集合、財団の榎様よりオリエンテーションの後、各班に分かれ 15 時解散まで班行動です。約 10 名ずつ 3 班に分かれ、駅から徒歩 5 分ほどから始まる「舞岡ふるさとの森（約 20 ha）」の尾根沿いの遊歩道を、自然観察をしながら 1 時間ほどかけて舞岡公園へ。公園内で谷戸の自然とお昼を楽しみ、帰路は舞岡公園から湧出する小川の畔の遊歩道（小川アメニティー）を歩いて舞岡駅に戻る約 7 km のコースです。下見時に公園内にキイロスズメバチの巣があったため、当日は一部ルートを変更しましたが、公園の周回コースを歩きました。

秋の自然が満載のコースで、色とりどりの花や果実、生物が迎えてくれて、時間が足りないくらいでしたが、インストラクターと参加者が一つのチームとなって、気づき、発見を共有し合い、楽しむことができたと思います。谷戸を初めて訪れた方も多く、「これが谷戸か・・・」と育った所との地形の違いを体感されていました。ススキの中にナンバンギセルを見つけて下さった方、ガマズミの虫こぶ（ガマズミミケフシ）の中の卵を確認するまで納得されない方、コブシの冬芽に感嘆の声をあげてくださった方々など、案内しているインストラクターも嬉しくなる機会が多々ありました。また、園内のボランティア活動をされている団体もいらっしゃり、当日は「稲刈り体験」を実施中でした。作業中にもかかわらず稲の種類を教えて下さったり、収穫した直後の籾殻をとらせて中のお米を見せて下さるなどの交流の機会がありました。散策中、初めて！知らなかった！の声を多く聞き、知見を広める良い観察会になったと思います。

この日は 30 度超えの夏日となりましたが、熱中症に気を付けてこまめに休憩、給水しながら歩き、幸い体調を崩された方はいらっしゃいませんでした。

森のめぐみ　シリーズ

枠組は桜の小枝です

第５４回　和の香木の香りを楽しむ

東京大学名誉教授　谷田貝　光克　氏

最近、国内に生育する樹木の香りへの関心が高まりつつあります。和の香り、和の精油といった言葉も耳にするようになりました。

森林率が 68%のわが国は北欧の森林国と肩を並べる木の国、森の国です。樹木の種類も多く芳香を有する木も多く存在します。そして古代から暮らしの中で親しまれてきた樹木も多いのです。奈良時代に編纂された日本書紀には神代の時代のスサノオノミコトについての記述があり、ひげを抜いて撒いたらスギになり胸毛からはヒノキ、尻の毛からはマキ、眉毛からはクスノキになったということです。

そしてさらにスギとクスの木は舟にせよ、ヒノキで宮を作れ、マキで棺を作れと言っています。木が古い時代から私たちのくらしの中で利用されていたことが分かります。クスノキは水湿に強く加工しやすいので古来舟材として使われてきていますし、耐久性にすぐれたヒノキは古来神社に利用されてきています。伊勢神宮で 20 年ごとに行われる社を新たにする式年遷宮では木曽ヒノキが使われます。

き）が名の由来といわれています。天に向かって伸びて天に近い木と思われることからも故人を忍ぶスギ線香が作られたとも言われています。

仏教伝来とともに持ち込まれた仏像は白檀で作られていましたがわが国には白檀が生育していませんのでその代用として香りの強いクスノキが使われました。クスノキもまたくらしとともに歩んできたのです。

クロモジは神社の社を造るときの用材の伐採の際にクロモジで祭壇を作ったり、サカキの代用とされたりして神の木と考えられていたのです。

マキはコウヤマキを指しますが古代には高貴な人の木棺に使用していたことが遺跡からわかります。

ヒバはアスナロとも呼ばれますが、材質に優れたヒノキを見て明日はヒノキになろうというのが名の由来のようです。枕草子にも記載されているヒバは耐久性に優れていますので古来寺社に使われてきました。

杉（スギ）、　檜（ヒノキ）、　高野槙（コウヤマキ）、黒文字（クロモジ）、　檜葉（ヒバ）、　樟（クスノキ）

このような由緒ある木を香木として利用しようという動きも最近見られるようになりました。香道で使用される香木には沈香、白檀などがありますが、その多くが東南アジアなどの海外からのものです。そこで我国の芳香を有する木を香木として使用したらどうだろうかというのがねらいです。

ヒノキは古代にこの木をこすり合わせて火を起こしたことから「火の木」が名の由来と言われています。わが国の代表的な建築材として利用されています。

ヒノキと共にわが国を代表する木、それがスギです。「いにしえの人の植えけむ杉が枝に霞たなびく春は来ぬらし」と万葉集に謳われているようにスギはすでに万葉の時代から植林されていたのです。真っすぐに伸びるので直木（すく

香道では六種（むくさ）とか六国五味というように薫物に使う香木に六という数字に重きをおいています。そこで和の香木にも 6 樹種を選ぶとすると、古くからくらしの中で利用され身近な存在であり、日本固有種であるスギ、ヒノキ、コウヤマキ、クロモジ、ヒバ、それに加えて固有種ではありませんがくらしの中で身近に存在していたクスノキを加えたものがわが国由来の和の六樹香木ともいえるかもしれません。

次回（第 55）は 10 年間掲載の最終掲載となります。
令和 6 年（AD2024.）2 月号の予定です。

イラスト　広報　⑪期　長尾（大塚）

写真　広報　⑪期　松本

植物図鑑　エバグリーン等を参考に

活　動　短　信

今回の掲載は R5 年 9 月 14 日から R5 年 10 月 14 日分です。寄稿頂いた中には、紙面都合や寄稿タイミングで次号以降の掲載になるものもあります。

12 月（師走）（旧暦 11 月霜月）の二十四節気と雑節、鳥こよみ（新）

二十四節気　:大雪 12/7　冬至 12/22
本格的に雪が降り始める季節。正月の事始めの日は 13 日。**鳥こよみ**　冬鳥の本格シーズン到来。境川遊水地には、マガモ、コガモ、キンクロハジロ、オオバンが姿を見せています。

活動短信への投稿概略フォーマットと略語の説明
ページレイアウトは気にせずベタ書きで結構です。
（できれば Word、メール直筆でも OK。Excel はできるだけ避けてください。改行等の処理に手間を要しますので）
写真もあれば添付ください。

◆　活動団体・活動名　等
日　日付:令和 x 年 x 月 x 日（曜日）できれば時間と天気も
場　場所　（例:相模原市緑区　長竹承継分収林）
参　参加者　人数
県　例　神奈川県 環境農政局　緑政部
　水源環境保全課　水源の森林推進グループ
財　（公財）かながわトラストみどり財団、看　看護師
ス　例　小田原市森林組合XX様
　　例　川崎市公園緑地協会・XX様
イ　インストラクター①　（○数字:期）　研:研修枠
以下、本文を概ね400字前後を目安として執筆ください
リーダーは責任を持って執筆者の選択と執筆後のチェックをお願いします。（執筆者名もお忘れなく！！）
活動終了後の速やかな投稿をお願いいたします m(_)m

◆　県民参加の森林づくり活動

日　令和 5 年 9 月 14 日（木）7:50～14:30　晴
場　真鶴町岩（真鶴町県行造林）
参　大人 36 名
財　豊丸課長様、藤本様　看　小林様
ス　小田原市森林組合様　2 名
イ　L 牧石⑭、柏倉④、佐藤⑤、齋藤⑧、野牛⑧、上田⑩、小笠原⑩、　徳岡⑪、宮下⑫、松石⑫、石垣⑮、大森⑯、小林⑯、小国⑰、鈴木⑰、山本⑰

季節外れの暑さが続く９月１４日県民参加の森林づくり活動真鶴町岩（真鶴町県行造林）で間伐活動を実施した。インストラクターの集合時間７時５０分には強い日差しが照り付け日陰で一般応募者の受付開始、マイクロバス１台に１７名の乗車が完了した時点で１号車より目的地の「さつきの郷」に向かい８時４０分に移動開始。移動ルートの国道１３５号線より真鶴半島「魚付き保安林」と先端の三ツ石、目的地「さつきの郷」付近より相模湾、初島、大島を望むことができた。９時４０分さつきの郷駐車場に到着後、現地集合者も合流。上空に雲が立ち込め少し怪しい天候の中でオリエンテーション開始、挨拶、インストラクター紹介、ストレッチ体操実施後、約１５分林道を移動し活動場付近に到着。班毎に用意された道具を身に着け、林道より山中入口の傾斜に注意し間伐現場へ向かった。

初参加者へ指導

活動エリアに到着後、各班２グループに分かれ活動開始。今回の間伐対象木は３５年生、樹高約１８ｍ前後、胸高直径１５ｃｍ～１７ｃｍのヒノキの間伐を実施した。

全体で１７本の間伐を行い　１２時に間伐現場離れ、用具の手入れ、返却を行い、１２時３０分閉会となった。約４５分の昼食休憩をとり、１３時１５分小田原駅に移動開始、帰りの国道１３５号線より小田原城を望むことが出来、予定時間の１４時１５分無事小田原駅西口に到着し活動を終了した。

決定した伐倒方向に見事に倒れた

ツルを残し見事な間伐

（記・写真　牧石　稔⑭）

◆　ネットワーク活動（鎌倉市公園協会様）
作業内容：緑のレンジャー講習会
第４回　実習「枝払い・間伐」講習

日　令和 5 年 9 月 16 日（土）10:00～14:00 晴
場　鎌倉市散在が池公園（神奈川県南鎌倉市）
参　鎌倉市緑のレンジャー　13 名（男 9 名　女 4 名）
　公益財団法人　鎌倉市公園協会 千田様、西野様
イ　安部⑤、上田⑫、國弘⑭、鈴木⑰

第３回に行った対象選木作業に続いての実際の枝打ち・間伐作業を行った。選木時は講習内容をもとに受講生が自身で判断して、各グループ約 10 から 15 本を選定した。当日は、グループ全員で作業の優先順位を決定し、その順に沿って時間の許す範囲で作業を行った。作業は３班に別れ、各班 2～4 本を、枯れ木の伐採、幹から脇に出た大枝払い、落枝しかかっている大枝払いを中心に、合計７本の伐採と、枝打ち、玉切り、林床整理までを行った。

作業開始前準備体操

対象が広葉樹で重心が安定しないことと、材が固いため、手鋸作業にてこずっていた。作業終了後は落枝、倒木のリスクも低減され、外観上の安心感も向上した。また、道具メンテナンスは、前回の講習で習った通り手順良くこなしていた。

間伐作業

昼食後は、1.5 時間程度で合計 5 種のロープワークの講習を行った。受講生の尽きない興味と習得しようとする姿勢、それに対する講師の巧みな話術で、大変有意義な時間であった。

ロープワーク講習会

伐倒木ロープ掛け作業

9 月の晴天であったにもかかわらず大変蒸し暑く、1 名極軽度の脱水症状者が出たが、作業中止して休憩することで昼食後は回復し、午後の講習は受講していた。短時間で多くのメニューが設定されており時間不足が予想されたが、意識の高い生徒の理解も早く丁度良い時間であった。ひと汗流してみな満足げな表情であった。

（記・写真　鈴木　強史⑰）

◆　第８回　県民参加の森づくり（間伐）

日　令和５年９月 24 日（日）
場　真鶴町岩（真鶴町県行造林）
参　76 名（内小学生２名）
財　豊丸様　藤本様
看　青木様
ス　小田原市森林組合様
イ　L 岩田⑭、湯浅⑪、齋藤⑧、杉山⑰、石川⑫、稲野辺⑬、中鉢⑰、西出⑫、中澤⑯、三浦⑰、水野⑭、永田⑯、三好⑰、西村⑮、小林⑯、田島⑰

暑さ寒さも彼岸までという諺の通り、当日はとても涼しく爽やかな間伐日和となりました。小田原駅西口に８時半に集合して、マイクロバス 4 台に便乗して、真鶴町岩の星が山公園付近の県行造林に向かいました。お彼岸ということもあってか、小田原から先の R135 に渋滞があり、到着時刻が 30 分ほど遅れました。現地での挨拶や班分け、注意事項などの説明の後、準備運動をして、10 時半には班ごとに道具置き場に出発しました。今回の参加者は 76 名で、5 班に分かれて作業をしました。班毎に道具の確認をし、さらに班内を 2～3 のグループに分けて間伐作業を行いました。前日の雨のせいで、地面がやや滑りやすくなっており、本日の安全目標は「周囲の確認」ということで共通理解しました。また、人数が多いので、近接作業にならないようにも気を付けました。

今回は、時間の都合もあり、また小学生や中学生の参加者や初めて間伐作業を行う方が多く、目標はグループで 1 本ないし 2 本ということで作業を開始しました。各グループで、間伐の作業の手順を説明し、作業を分担して、伐倒しました。枝打ちがされていたせいで比較的スムーズに伐倒できた班が多かったようです。大きな檜の木が倒れる豪快な音に、歓声が上がっていました。丁寧に枝打ちや玉切りを行い、班によっては、残りの時間でコースターなどを作っていました。何本か掛かり木になり、苦戦する場面もありましたが、これもよい経験となったようです。

12 時半には作業を終えて、閉会式を行いました。統括リーダーからは、滑車をかける位置や伐倒木の接地処理、受け口・追い口の方向性の正確さなどについて反省点も示され、私たちも学びの多い森づくりでした。事故やけがもなく、参加者から、「楽しかった。また参加したいです。」という感想を多くいただきました。清々しい秋の一日を新鮮な森林の空気と檜の香りに包まれて、思い出に残る間伐作業になりました。

（記・写真　三好　浩一⑰）

◆　クリスマスリース作り　森林文化部会

日　令和５年９月 24 日　（日）　10:00～14:00
場　神奈川県立 21 世紀の森
参　10 名(内部講師含む)
イ　菊地①

秋のネットワーク活動のクラフト対応するため21の森でクリスマスリース作りの研修会を開催しました。最初には秋晴れの中材料を集めに森の中を散策です。枝や木の実(無患子、松ボックリ)拾いました。

台になる芯を作ります。定番の丸型、大きくすると楕円になってしまうので直径 30 cm 位の丸にします。結束バンドが大活躍、松ボックリに針金を付けて補強も兼ねて芯となる枝に巻き付けます。

飾りとなる木の実やリボン付けて完成。続いて玄関にこの頃飾ってある箒型や部屋にも OK な三角型とバリエーション豊かに作りました。作ったリースをお土産に森を後にしました。ネットワーク活動で活躍して下さいね。

（写真 酒井 房次郎⑩、記 菊地 昭子①）

◆　回胴式遊技機商業協同組合様の林内整理（下刈り）

日 令和５年９月 30 日（土）
場 やどりき水源林
参 53 名
県 黒田　様、佐々木　様
財 倉野　様
イ Ｌ森本⑤、佐藤⑤、吉田⑪、真貝⑪

パチンコ・パチスロの組合で、環境保全の一環としての社会貢献活動を展開。

元々、少雨決行先で（全員カッパ着用）作業に臨んだ。恒例の緑の募金に関して、この場を借りて深謝を申しあげたい。

新規メニューの呈示が必要な時期となっており、様々な社会貢献策のご提案をしていきたいと思いました。

（記　森本　正信⑤、写真 回胴式遊技機商業協同組合 様、）

◆　第９回県民参加の森林づくり活動（間伐）

日 令和５年 10 月１日（日）　9:00～13：30　曇
場 小田原市久野（今井野）
参 ２７名
財 豊丸課長、藤本様
看 佃様
ス 小田原市森林組合３名
イ Ｌ西出⑫、柏倉④、鈴木⑧、石川⑫、渡辺⑫、斉藤⑬、岩田⑭、牧石⑭、水野⑭、堀口⑯、野口⑰、文原⑰、森本⑰、渡邊⑰

前日が雨で予備日の開催となり、参加者が当初予定の 66 名から 27 名となりました。間伐場所は小田原森林組合が管理している 11 年生のヒノキ林で、天候は曇でしたが、前日の雨のためか湿度が高く、熱中症に注意しながら作業を進めました。

当初、対象木は樹径が細いため、追い口だけで伐倒できるとの話がありましたが、実際には樹高も高く、いつも通り受け口、追い口で伐倒を進めました。追い口後の伐倒は、手で押して伐倒する方法で進めました。班によっては掛かり木になりそうな樹木や、ツタが絡まっている樹木には、ロープを掛けて伐倒しておりました。伐倒後はいつも通り、枝払い、玉切りを進めました。9:50 頃から作業を開始し、11:30 頃まで作業を続け、27 名で計 77 本の間伐を完了しました。

参加者数が少ないため、インストラクター1 名に対して２～３名の参加者グループとなり、いつも以上に参加者と話ができたと思います。作業終了後に間伐で明るくなった林を見ながら、参加者の楽しかったとの言葉を聞くことができて良かったと思える一日でした。

（記　渡邊　茂雄⑰、写真　みどり財団様提供）

◆　キノコ観察会

日 令和５年 10 月１日　（日）　曇り
場 21 世紀の森
参 参加者　７名
イ Ｌ水口⑨、島岡③、杉崎⑩、飛田⑮、藤田⑰、高谷⑰、大谷⑰

朝ひと雨があり、また午後から天気が崩れそうな中、参加者の運を信じて 21 世紀の森での『キノコ観察会』が始まりました。

管理棟の前は、金木犀とカツラの甘い匂いと香ばしい匂いが漂ってます。例年であれば金木犀の香りがする時期になるとキノコが良く見られるらしいのですが、今年のキノコは夏の酷暑のせいか少なさそうですという管理棟からの情報を得て、観察会は始まりました。まずは、島岡さんから生物界での菌類、菌類の働き、キノコと

は、キノコ観察の方法、観察会の心得などの説明があり、午前中は金太郎コースを午後はドングリコースでの観察となり、さぁスタートです。

金太郎コースの尾根を少しずつ下りながら足元の朽ちた木や木の根元などキノコ目（キノコ探しに長けた観察眼？）を駆使して探します。

傘の色が赤や白や薄黄や薄紅色したキノコまた、カサ、イボ、ヒダ、管孔（キノコの裏側に胞子を出す孔）、ツバなどの違いをよく観察すると様々なキノコがあるわあるわ･･！

島岡さんと杉崎さんはキノコと図鑑をしっかり見て同定しますが、私たち参加者は写真を撮り図鑑を取り出し、これだ！いや色が違う！あれ毛が無い！孔は！などなど、にわかキノコ博士と化し、ああでもないこうでもないと楽しくキノコ観察会が進められました。見つけたキノコは、ヒラタケ、テングタケ、カワラタケ、ベニタケなどのなかまですが、種類が多すぎてアワアワです。

ヒラタケのなかま

ウラベニカサのなかま

午後のドングリコースは、午前中の金太郎コースより数多くのキノコが見られました。美味しそうなヒラタケを発見！キノコが食べれるかどうかは、キノコを嗅いだり少しかじったりしてみて、苦いとか感じるようだと毒キノコかもしれません。必ず図鑑やキノコ名人に確認することでが大切です！と念押し。このヒラタケは匂いヨシ、かじってみてヨシ、柔らかさヨシでした。生ヒラタケを一枚美味く・・・・・・た。

カレエダタケのなかま

カワラタケのなかま

時間が経つのも忘れるほど楽しい観察会となりました。皆さん、ありがとうございました。キノコ観察会はどこでもでき、街中の公園や植え込みなんかにも気が付かないだけであるようです。今日習ったキノコ目で探ってみようと思います。

（記・写真　大谷　雅彦⑰）

◆　アコム株式会社様　（アコムの森（神奈川））

日　令和５年10月７日（土）　晴れ
場　県立２１世紀の森
参　参加者　18 名　（大人 18 名　子供０名）
県　藤原主査、佐藤技師
イ　Ｌ岡村⑯、小林⑯、森本⑰

暑くもなく、寒くもない天候に恵まれて気持ち良く活動ができた。本日の活動は　午前中はカツラの間伐、午後は枝打ちと一日中森林活動で気持ちの良い汗をかいた。

間伐は初めての体験のため、まず、目的及び基本的動作を丁寧に説明した。

その後、倒木方向の決定、ロープ掛け、受け口、追口の作成など一つ一つ手本を示しながら、進めていった。順調に作業を進めていったが、対象樹木は１５m以上の高木であることから“かかり木”となってしまった。そこで、ツルの調整などにより無事伐倒することができた。

その後枝落とし、玉切へと進み、今後のクラフト作成用のため玉切した幹を２００m先の倉庫へ運搬・格納した。幹は結構な重さで且つ急坂であることから皆さん苦労して運んで行った。ここで午前中の活動は終了し、昼食とした。

午後は、成長の森（Ｈ２６年）にて枝打ちを行った。午前中の疲れもよそに、目的地までの急坂を元気よく登って行った。枝打ち場所では、目的及び枝打ち方法を説明するとともに、見本を見せ丁寧な作業を行うことを進めた。１本の樹木を終わる度に両手で幹の周りに手を触れ凸凹の有無を確かめ、俗にいうデベソをなくすことに努めた。作業は順調に進んだ。その後、道具の清掃・片付けを行い予定通り活動は終了した。

安全目標『足元注意』のもと安全作業に努め、怪我もなかった。

（記・写真　岡村　寛⑯）

◆J&T 環境株式会社総務部様

日 令和５年10月９日（月）10:00～12:20 雨
場 県立２１世紀の森
参 大人32名　子供９名
県 環境農政局 緑政部 水源環境保全課 黒田様、宮崎様
イ L 牧石⑭、山崎⑦、西岡⑭、松浦⑯、高谷⑰

三連休最終日１０月９日、関東沖合の秋雨前線の影響で雨天の中、第２回目の活動が行われた。
今回は「社員とその家族のボランティア活動」枝打ち活動、木工工作、午後から自然観察の予定でしたが、当日は１１月の肌寒さと冷たい雨となり、雨バージョンの木工工作、展示室での環境学習、周囲の自然観察を約１時間の交替制で実施した。

木工工作は「スマホスタンド」「ゴムガン」「ミニピンボール」「三輪バギー」「マイハシづくり」。
自然観察は展示室に設置されているパネルを活用し「私たちが飲んでいる水はどの水」「森の働き」「木が種から育って木材になるまで」等について環境学習を行った。

自然観察はムクロジの木を前に水の入ったペットボトルに果皮をいれ泡立たせ石鹸の代わりとして利用できる説明も行われた。
樹木の説明ではヒメシャラの木肌にふれ滑らかさを実感していただいた。キンギョツバキは大変興味深く観察されていた。赤く熟したガマズミの秋の味覚を実感されていた。１２時２０分、終了の挨拶を行い無事終了した。

（記・写真　牧石　稔⑭）

◆　MH I パワーエンジニアリング株式会社様
「未来」に繋げる MH I パワーエンジニアリングの活動

日 令和５年10月14日(土)10:00～15:00 晴れ
場 県立21世紀の森
参 社員とご家族(大人10名　子供１名)
県 神奈川県水源環境保全課 水源事業グループ 村松様
星様
イ L 石垣⑮、 岡村⑯

初めての活動とあり、今後社員・ご家族の皆さまへと広げていくため２１世紀の森で可能な体験を多く取り入れたプログラムとなりました。まず最初は「枝打ち」です。全員初体験でしたが、日々“品質管理”を重視し作業されている皆さま。この言葉を唱えながらの丁寧な作業に県の方から「花丸印」をいただく仕上がりとなりました。
昼食後、展示室で午前中実施した「枝打ち」を行った材と無しの材の違いの確認や森林・林業の学びの後「箸作り」へと移ります。五角形・先の細さ・ヤスリのかけ方等々各自のこだわりに１時間以上集中した末の「マイ箸完成」に皆さま満足の笑顔です。
最後は「金太郎コース」散策となりカツラの葉やヒノキの実の香り・樹皮の感触・木や草の名前当てクイズに首を捻ったり、クスサンの繭の精巧さに驚いたりと「普段味わえない自然を体感出来ました」の言葉をいただき終了となりました。

（記　石垣　桃栄 ⑮、写真提供 MHI 様）

森と一緒に生きてみる

森のめぐみを考える

私たちは地球に生まれてこのかた、森のめぐみの中で生きてきた。森は木の実・山菜をなどの食べ物や薬用植物をめぐみ、染料や樹脂、精油、住みかとなる木材などを提供してきた。
それらは科学技術の進歩とともに化石資源からの合成品に置き換わり影を潜めていったものも少なくない。
　温暖化や環境汚染が進む中で化成品に代わる再生可能で環境にも優しい天然物の利用が見直されている。
　森がつくりだす特用林産物の例や海外での植林の例などについてご紹介する。

東京大学名誉教授／理学博士

谷田貝　光克 氏（やたがい　みつよし）

1943 年栃木県生まれ。1971 年東北大学大学院理学研究科博士課程修了。米国バージニア州立大学化学科及びメイン州立大学化学科博士研究員、農林省森林総合研究所生物活性物質研究室長、同森林化学科長などを経て、1999 年東京大学大学院農学生命科学研究科農学国際専攻教授。2006 年より東京大学名誉教授。2011～18 年フレグランスジャーナル社「香りの図書館」館長。専門は天然物有機化学。

第 15 回 森林文化講演会

2024 年 2 月 4 日 (日)

14:00～15:30　（開場 13:30）
場所　藤沢市南藤沢 22-7　第一相澤ビル
（藤沢駅南口　OPA 隣）
会費　500 円　　定員 70 名（先着順）

インストラクターの会の会報誌【森のなかま】に 2014 年 4 月号より 10 年間執筆中です。

申し込み：1.お名前（ﾌﾘｶﾞﾅ）2.ご住所（市まで）3.年代
4.所属団体があれば団体名　を明記の上 S-instb12@jcom.zaq.ne.jp
担当　菊地　まで申し込みください。締切 1 月 20 日(土)

主催：ＮＰＯ法人　かながわ森林インストラクターの会
共催：神奈川県森林協会（申請準備中）後援:(公財)かながわトラストみどり財団（申請準備中）、

やどりき水源林ミニガイド

「森の案内人」
森の案内人は 12 月～2 月はお休み。3 月から再開します。

「水源林ニュース」
11 月号「やどりき水源林は秋たけなわです！」を発行しました。こちらからご覧ください。
chrome-extension://efaidnbmnnnibpcajpcglclefindmkaj/https://www.forest-kanagawa.jp/4field/news/news209.pdf

森のなかまは過去号もご覧になれます。
（ホームページ）　http://www.forest-kanagawa.jp/3kiroku.html#kiroku01
（HP 担当 ： 森本　利弘）

◇ 森のなかま原稿募集 ◇

会員読者の皆様から広く募集しています。

＜広報全般についてのお問い合わせ＞
河西　静夫
skasai0618@gmail.com
Tel ：090-1227-6209

＜電子配信会員向け担当＞　笠原かずみ
Mail: happy_kumakuma711@icloud.com

＜メール・手書き原稿送り先＞
【本誌】河西　静夫
skasai0618@gmail.com
Tel ：090-1227-6209

【別冊】小国　一男
Mail ：　ka-oguni@ab.auone-net.jp

原稿は随時受付けています。

●やどりき水源林問合せ:
(公財)かながわトラストみどり財団
TEL：045－412-2255
FAX：045－412-2300
● ホームページ： http//www.ktm.or.jp
E-mail: midori@ktm.or.jp

(かながわ森林インストラクターの会)
ホームページ
http//www.forest-kanagawa.jp
E-mail k-inst0981@friend.ocn.ne.jp

編集後記

★　11 月初めに白馬、故郷（鬼無里）、軽井沢と行きました。今年の紅葉は美しくありません。
　驚きがありました。故郷は熊や猿は元々いたので驚きはしないのですが、いなかった鹿や猪がいて、特に猪は畑中を荒し廻り、困ると本家の人が嘆いていました。私には信じられない故郷の状況でした。（松本）

★　遅まきながら千葉県君津市で大繁殖しているキョンの肉を食べてみました。赤身の肉なのに柔らかく、シカやイノシシより旨い。ただ臭みはないと言いながらも、獣独特の後味を感じ、家のお土産にはしませんでした。ゴルフ場の知人は「つぶらな瞳をしているので、サルより駆除しにくい」とぼやいています。猿の瞳もつぶらなんですけどね…（竹内）

★　稲刈りの終了とともに黒川理事長の「鎌倉の田んぼ」コーナーが、先月最終回を迎え（お疲れさまでした!）、今月からどうしようかと考えていましたが、場当たり的に「鳥こよみ」をスタートさせてみました。四季折々の鳥の様子を 1 年（不評なら年度内）、さらっと書いてみようと思います。冬は木々の葉が落ち、不快な虫も寄ってこず、冬鳥を観察することができる絶好の季節。双眼鏡を片手に散歩してみては如何でしょうか？（河西）

コガモ（♀）（で良いかと思います）

かながわしずくちゃん Twitter は下記URLで見ることができます。

https://twitter.com/kanagawa_sizuku

緑の募金
シンボルマーク
緑の募金キャラクター
どんぐりくん・どんぐりちゃん

かながわ森林インストラクターの会は『緑の募金』の支援団体としても取組んでいます。全国で5番目／NPO法人で初めて委嘱されています。

年間通読のお申し込み
「森のなかま」年間通読をご希望の方は、郵便局備付けの郵便振替を利用してお申し込み下さい。
便振替口座 00230-0-2454　**かながわ森林インストラクターの会**
宛まで２０００円をお振込み下さい。振替用紙には、必ず、住所、氏名を明記して下さい。振替用紙到着の翌月号から 12 回／1 年間お届け致します。

編集人：　河西　静夫
広報部：　黒川　敏史、松本　保、
　　笠原　かずみ、長尾　晴子、
　　竹内　明彦、小林　照夫、
　　小国　一男、小池　宗子
支援：　大原　正志、　吉田　郁夫